受賞報告

急性期病院における認知症看護認定看護師の食支援方法

―食支援が必要な認知症高齢者に焦点を当てて―

柳　沢　あすか

杏林大学保健学部看護学科看護養護教育学専攻４年

【目的】

認知症看護について豊富な知識と経験を有する認知症看護認定看護師が，急性期病院において実施している，認知症高齢者への食支援方法を明らかにすること。

【方法】

対象は東京都内のＡ病院で働く，認知症看護認定看護師の資格を有する，本研究に対し参加の同意を得られた看護師２名とした。研究デザインは質的記述的研究とし，インタビューガイドに沿って個別に半構造的インタビューを実施した。なお，本研究は杏林大学保健学部倫理審査委員会から承認（承認番号：2019－26）を得て実施した。

【結果】

分析の結果，急性期病院における認知症看護認定看護師の食支援方法について，101のコード，27のサブカテゴリー，７のカテゴリーが抽出された。急性期病院における認知症看護認定看護師は，【食支援方法を立案する手がかり】に基づき，【認知症患者を知り，寄り添う】というような食支援を行っていた。

【考察】

Ⅰ．急性期病院における認知症看護認定看護師の食支援方法

認知症看護認定看護師は目の前の認知症高齢者の表情や状態・症状を観察することによるケアと，認知症の病態特

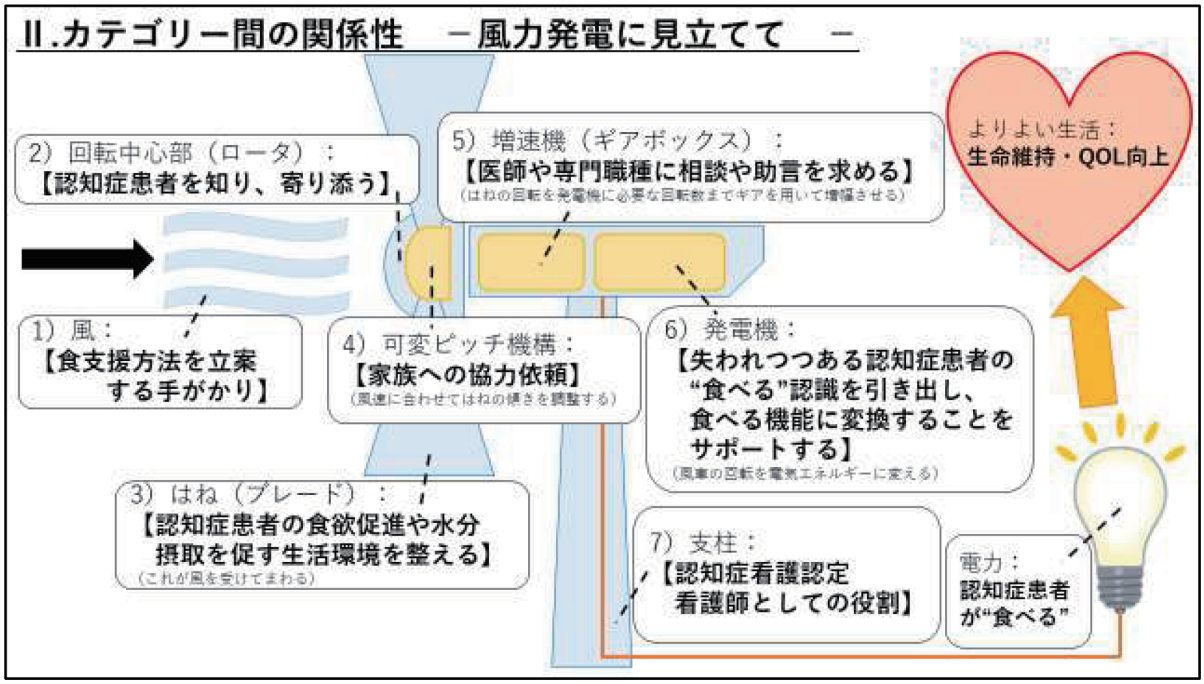

図１　急性期病院における認知症看護認定看護師の食支援―風力発電に見立てて―

性を踏まえたケアの両視点に基づいた支援方法を実践しており，それらは急性期病院における効果的な食支援の実施につながっていることが示唆された。

Ⅱ．カテゴリー間の関係性（図１）

急性期病院における認知症看護認定看護師の食支援方法を風力発電の仕組みに見立てることができた。【１）食支援方法を立案する手がかり】は風力発電を動かす「風」の役割を担っていた。【２）認知症患者を知り，寄り添う】，【３）認知症患者の食欲促進や水分摂取を促す生活環境を整える】の２つのカテゴリーは「風車のはね」と「回転中心部」の位置付けであり，認知症高齢者の摂食につながるケア実施を意味していると考えられる。【４）家族への協力依頼】は風車の回転中心部の内部にある「可変ピッチ機構」であり，風速に合わせてはねの傾きを調整し，【５）医師や専門職種に相談や助言を求める】は「増速機」にあたり，はねの回転を発電機に必要な回転数までギアを用いて増幅させるはたらきがあると推測された。【６）失われつつある認知症患者の“食べる”認識を引き出し，食べる機能に変換することをサポートする】は「発電機」であり，食支援を認知症高齢者の“食べる”ことに変える意味を持っているのだと思われる。また，【７）認知症看護認定看護師としての役割】は「支柱」であり，他の食支援方法を支えているのだろうと考えられる。これらのカテゴリーに基づき認知症高齢者が“食べる”という食支援実施による反応がうまれ，それは生命維持やQOL向上につながっていく可能性が示唆された。